



2024年春、北陸新幹線
ついに福井へ。

福井県立大学文系新学部の立地に係る

要 望 書



アオッサ（AOSSA）全景

令和6年2月

福 井 市

福井県立大学文系新学部の立地について

現在、福井県立大学において進められている文系新学部の開設について、令和5年11月10日に「文系新学部の設置に関する有識者会議」から、福井県立大学に対して、提言がなされました。

提言では、新学部の立地場所として、永平寺キャンパスのほか、福井駅周辺の「特に、まちなかキャンパスについては、学生の利便性はもとより、リスクリング教育を社会人が学びやすい環境、まちづくりなどへの地域貢献、県民との協働や多様な人材との交流、フィールドワークを実施する上でのアクセスなど、文系新学部の特性を十分に活かすことができるため、実現に向けた可能性を検討すべき」とされています。

ところで、JR福井駅東口に隣接するアオッサは、福井県、福井市、民間権利者が区分所有する複合施設であり、桜木図書館や放送大学、また福井県内の全ての大学、短期大学、高等専門学校の学生が集い、学べる共通のサテライトキャンパス「Fスクエア」など、学びの場としての機能が充実しています。

現在、アオッサ1階から3階の商業施設は、民間権利者で構成する共有床組合がテナントを誘致して運営を行っておりますが、例えば、この部分に新学部が立地することができれば、アオッサをまちなかの学びの拠点とし、学習する若者・社会人等が集まり、まちなかのさらなる賑わいに繋げていくことが可能となり、有識者会議の提言にも沿うものとなります。

つきましては、次の事項について強く要望します。

要望事項

福井県立大学において検討が進められている文系新学部について、北陸新幹線福井開業により人的交流が活性化する福井駅周辺のまちなかにキャンパスを立地すること

令和6年2月1日

福井市長

西行茂